

# 小施策評価シート (平成 27 年度実績評価)

施策コード	29	施策名	都市間交流の促進	
小施策コード	29-1	小施策名	都市間交流の促進	
小施策 主管課等コード	123000	小施策 主管課等名	企画調整課	
評価責任者名	小川 秀樹		内線番号	3810
評価シート作成者名	藤澤 法輝		内線番号	3811

## Step 1 小施策の全体像

### 小施策の概要等 (構成事業は別紙ロジックモデルシートのとおり)

現状と課題	<p>経済・文化・歴史などの異なる都市や地域の人々との交流は、人々の生活の質の向上とともに、経済文化活動の活性化など、まちのにぎわいの創出にもつながることから、さまざまな都市との市民交流を促進していくことが必要である。</p> <p>本市では、昭和 59 年に南部氏のゆかりの深い自治体により南部首長会議を発足するとともに、平成 24 年には沖縄県うるま市と友好都市提携の締結や東京都文京区と地域文化交流に関する協定の締結を行っており、それぞれ市民交流が広がっている。</p> <p>本市では、これ以外のさまざまな都市や地域との市民交流も幅広く行われており、その広がりや深まりを促進していくことが求められている。</p>
取組の方向性	市民の生活の質の向上やまちのにぎわい、魅力向上に質するため、友好都市等や経済・文化・歴史などの背景の異なるさまざまな都市・地域の人々との交流を促進する。
対象 (誰(何)を対象として行うのか)	市民, 連携市町村
意図 (対象をどのようにしたいのか)	都市間の連携した取組が活発になり、市民の生活文化の質の向上やまちのにぎわいにつながる。

## Step 2 成果指標の推移

(↑: 数値を上げていくことを目標とする指標, ↓: 数値を下げていくことを目標とする指標, →: 数値を維持することを目標とする指標)

指標項目	単位	25 年度 実績 (現状値)	27 年度 実績	31 年度 目標値	36 年度 目標値
A 都市間交流を促進するための協定等の締結数 (↑)	件	3	3	4	5
B ( )					
C ( )					

### Step 3 市民ニーズの把握

盛岡市まちづくり評価アンケート結果によると、「都市間の交流が盛んになり、まちのにぎわいを生む取り組み」については、11.4%の市民が満足している一方で、54.6%の市民が「今後の取組が重要」としている。

### Step 4 役割分担分析

#### 1 各主体の役割の状況

		役割の内容	役割分担比率 (%)
各主体の 役割の状況	市	都市間の友好都市協定などの締結は、盛岡市が中心的な役割を担うこととしている。	50
	国・県・ 他自治体	友好関係を築くためには、自治体間の協力が必要である。	10
	市民・ NPO	都市間の友好関係を築くためには、市民の理解と協力なくしては成り立たず、交流の主役である。	20
	企業・ その他	都市間交流には、産業・観光分野の相互協力が必要である。	20

#### 2 今後の市の役割の比重の方向性とその理由

- 市の役割の比重を拡大していくことを検討する
  - 現状維持（現在の市の役割の比重を維持する）
  - 市の役割の比重を縮小していくことを検討する
- （理由）

都市間交流においては、市が中心的な役割を担うこととしているが、市民交流も幅広く行われており、その広がりや深まりを促進していくことが重要であることから、現状維持とするもの。

### Step 5 成果・問題点の把握と改革改善案

#### 1 成果の把握と要因分析及び課題の設定

##### (1) 小施策の中で成果をあげた点

- ・ 「いわて・盛岡デー・イン・沖縄」や「ちゅらしま大沖縄展」の開催を通じ、両市の相互理解促進につながった。
- ・ 函館グルメサーカスへの出展を通じ、函館市民が本市の物産に興味を持つことにつながった。

## (2) 成果をあげた要因

- ・ 「いわて・盛岡デー・イン・沖縄」では、盛岡の物産販売を行い、また、「ちゅらしま大沖縄展」では、うるま市を中心とした沖縄の物産の販売を行ったことから、両市民が物産の購入などを通じて、お互いの文化に触れる機会となった。
- ・ 函館での盛岡の物産販売により函館市民が、盛岡を知る機会となった。

## (3) さらに成果向上に向けて取り組むべき課題（課題がある場合に記載）

- ・ 市民レベルでの交流を促進する。
- ・ 北海道新幹線の開業を好期ととらえ、積極的に函館市との交流を推進する。

## 2 問題点の把握と原因分析及び課題の設定

### (1) 小施策における現状の問題点

- ・ 市民レベルでの交流が活発とまで言えないこと。
- ・ 都市間交流を通じて、盛岡に興味を持つ人が増えていないこと。

### (2) 現状の問題点が生じている原因

- ・ 交流の機会が不足していること。
- ・ 函館まで出向いて、物産の販売に参加できる業種、内容が限られること。

### (3) 分析した原因を踏まえて取り組むべき課題

- ・ さまざまな機会をとらえて、都市間の交流の機会を増やす。
- ・ 函館グルメサーカスへの継続参加のほか、学習旅行の誘致など、都市間交流の裾野を広げ、市民レベルでの交流を促進する。

## 3 改革改善案（上記1(3)及び2(3)で設定した課題に対する具体の取組）

- ・ 市民レベルの交流を促進するため、「いわて・盛岡デー・イン・沖縄」や「ちゅらしま大沖縄展」などを通じ、両市民がお互いの文化や特産品を知る機会を増やす。
- ・ 行政レベルでの交流推進を図るため、函館市への本市職員の派遣など、積極的に情報収集などに努める。
- ・ 「北海道函館市との交流促進」において、函館グルメサーカスへの出展規模を拡大し、函館での本市の物産販売などを強化するほか、学習旅行の誘致については、受け地側の体制整備、魅力的な教育旅行学習プランの構築、旅費等を考慮した際の誘致可能性の高い対象県を絞った上での的確なプロモーション活動の実施に努めるなど、本市の知名度の向上を図るとともに、本市の積極的な売り込みを進める。

## Step 6 小施策と構成事業の関係性

### 1 小施策との結び付きが弱い、もしくは他の事業と重複していると考えられる事業

該当事業なし。

### 2 1で記載した事業についてその理由

### 3 1で記載した事業の今後の方向性（案）（縮小・廃止・統廃合等）